

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	TOUR X SOLID	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.580	△RG	0.055	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：TOUR X SOLID

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：TOUR SiC

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

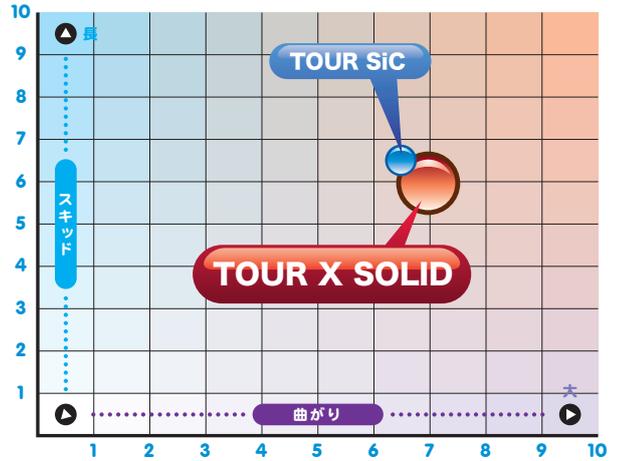
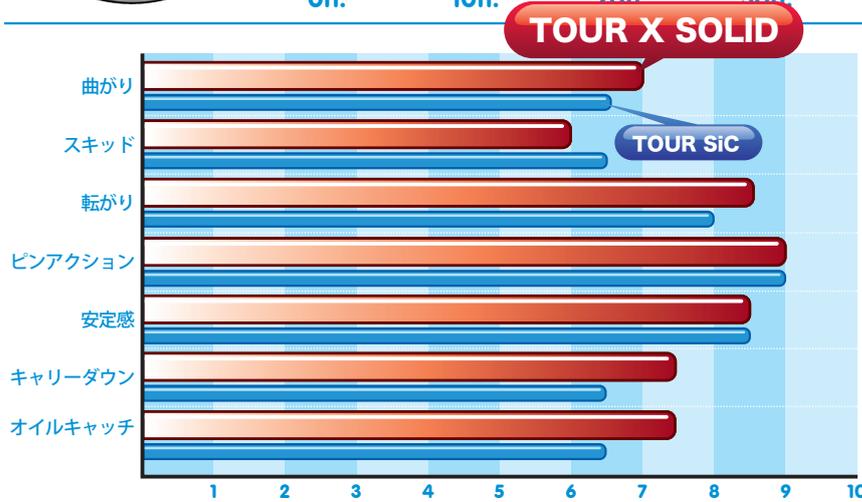
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

トラック社の長い歴史の中から生まれたコアテクノロジー。Tour Xに採用されているDNA Coreも特徴的な形ですが、リアクションはシンプルかつ扱いやすい動きをみせるのが特徴です。今回のTour X SolidはそのDNA Coreを使い、Tour XのLuxury DR-4 Perl ReactiveからDR-4 Solid Reactiveへと変更されました。Tour XのLuxury DR-4 Pearl ReactiveはPerl Reactiveの特徴でもある手前のスキッドを活かし、バックエンドで動きをだすのが特徴でした。今回のTour X SolidはSolid Reactiveが特徴とするキャッチをミッドレーンに出すことで、Tour Xと同じ使用領域でもより安定感を求めた仕上がりになったと言えます。

二つを比較しながら感じたことは、長いゲーム数で徐々にオイルが削れ段差ができたとき、Tour Xではラインを窮屈に絞らなければならないイメージでもTour X Solidではやや内から外に向けてラインが取りやすく感じました。それは内側のオイルを使った時の安定感がPearl ReactiveよりもSolid Reactiveのほうが安定していることと、今回のTour X Solidの最大の売りであるミッドレーンでの安定感がやや内からの投球でも向きを変えてくれるので、ポケットまでの軌跡をよりイメージし易かったのだと思います。Solid Reactiveはどちらかというと手前のキャッチは強く、バックエンドで動きが停滞してしまうようなイメージを持たれますが、今回のDR-4 Solid Reactiveはやや遅めのコンディション用にブレンドされたSolid Reactiveですので、動き出しが良く出てもピンヒットまでの動きが減速するイメージはありません。私を感じているように、中のラインになった時に窮屈な絞るラインを苦手としている方はこのボールは武器になるでしょう。

特記事項

シンプルかつ扱いやすいDNA Coreとキャッチを強く感じさせないDR-4 Solid Reactiveでやや遅めのコンディションで安定した軌跡を描くことができます。